

教材名「パソコンでローマ字を使おう(ローマ字インベーダーゲームを使って)」

目 標

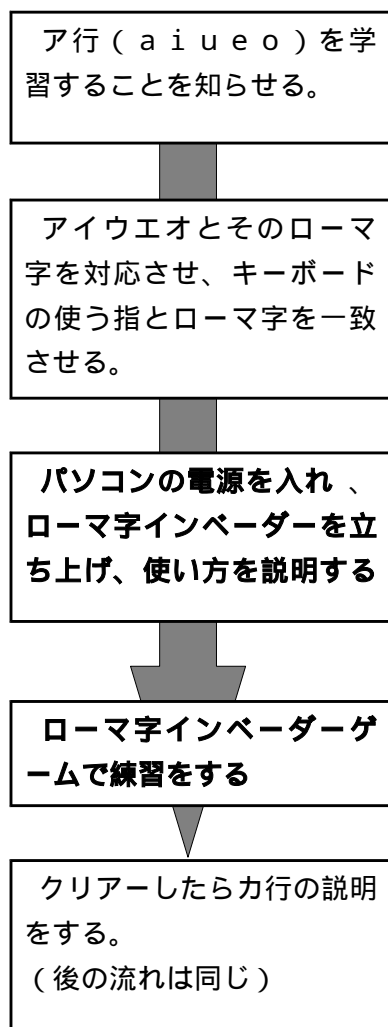
- ・ローマ字を使って、キーボードから入力できるようになる。
- ・キーボードになれ、楽しく学習する。

コンピューターを活用する利点

4年生の国語科ではローマ字を学習する。そのとき、自分の表したローマ字が正しいかどうか、パソコンであれば瞬時に結果が出て評価ができる。それに単調になりがちな繰り返し練習もゲーム感覚で楽しみながら、個人の能力に応じて学習できる。これらのことは、パソコンの特性を活用した利点である。

また、パソコンを通じてローマ字を学習することは国語科におけるローマ字力の向上と、キーボードからの入力の技能向上といった2つの学習面からの利点もある。さらに、家にパソコンとソフトがあれば、家庭学習によって、学習したことを定着させたり予習したりもできる。このようなことからローマ字インベーダーゲームを開発し、教材として活用していくには十分価値があると思われる。

授業の流れ



ICT活用場面

・工夫した点

キーボードでのローマ字の学習ソフトは、アイウエオから順番に学習するのではなく、ランダムになっていることが多い。また、ローマ字に必要でないX Q Lのどの文字もキーボード練習では対象になっている。

実際、国語の時間にローマ字を学習するのはア行からで、ア行が終われば力行と進んでいくのが普通である。

だから、キーボードのローマ字も、国語で学習した後に同じ方法で練習していく必要がある。

そこで、ローマ字インベーダーというソフトを開発し、国語の教科書通りにア行から順番に学習できるように設計した。

また、子どもたちが飽きてしまわないよう、ゲームという形にして、楽しくわくわくしながら遊び感覚で学習できるようにした。

・指導上の留意点

ア行の母音がしっかりとできると、後は子音との組み合わせで他の行ができるというローマ字の特性を身につけ、ア行の時に、決まった指でキーボードを打てるように指導したい。打つ速度も変えることができるので、なれないうちはゆっくりとした速度で正確に打てるようにしていきたい。

成果と課題

ゲーム感覚で学習できるので、とても興味を持って取り組んでいった。今までの最高点を出した人の名前と得点が記録として画面に残るので、飽きることなく必死になって学習している。休み時間にも利用している児童もたくさんあった。

また、国語であつかうローマ字の発展学習も兼ねているので、ローマ字の読み書きの力もあわせてつけていくことができ、早く文字が打てるようになった。

課題としては、進度に差ができ、個人差が広がっていく傾向にあることと、多くの人に使ってもらい改良を重ねていくことである。

ICT活用環境等

使用周辺機器	一人パソコン1台
使用ソフト名	Windows2000 XPが使える環境
使用教室	パソコン室



(資料)

このローマ字インベーダーというソフトは、パソコン室の 40 台すべてにインストールされている。自己開発したソフトであるので著作権の心配はなく、自由に使える。動作で不都合が起こるとその都度かきかえて現在に至っているの、完成度は高いと思う。子どもたちは自宅のパソコンにダウンロードして遊び感覚で学習しており、学校に来ると、「行までクリアーできたよ。」「上級は無理や。」など言っている。

ダウンロードして始めると、右のような ~ のような画面が表示される。

最初の起動画面から何かキーを押すと の名前を登録する画面になる。初回は「初めて」を選んで の画面で名前を登録して始める。

次回からは、「続きから始める」を選び の画面になる。

ア行がクリアーされるとカ行、サ行、タ行と順を追って進んでいく仕組みになっている。最後は名人ランクまで。そこまでするとローマ字練習だけでなく、ブラインドタッチのタイピングも完全に習得したレベルになっている。

ルールとしては敵のエネルギーが 0 になるまでの間、上からローマ字が書かれたインベーダーが降りてくる。下まで降りると町が破壊されていき、全部の町が破壊されるとゲームオーバーになる。それまでに降りてくるインベーダーと同じローマ字を打って倒しきると次に進むことができる。

このソフト教材は、前述のようにフリーウェアであるので、播磨西小学校のホームページから自由にダウンロードできるようになっている。

是非一度使っていただきたいと思う。

<http://www.harinishi.harimakyoku.jp/>

免責

本プログラムは個人が作成したものです。このプログラムによって生じた損害について一切の責任を負いません。この条件をご承諾された上でご利用ください。



起動画面



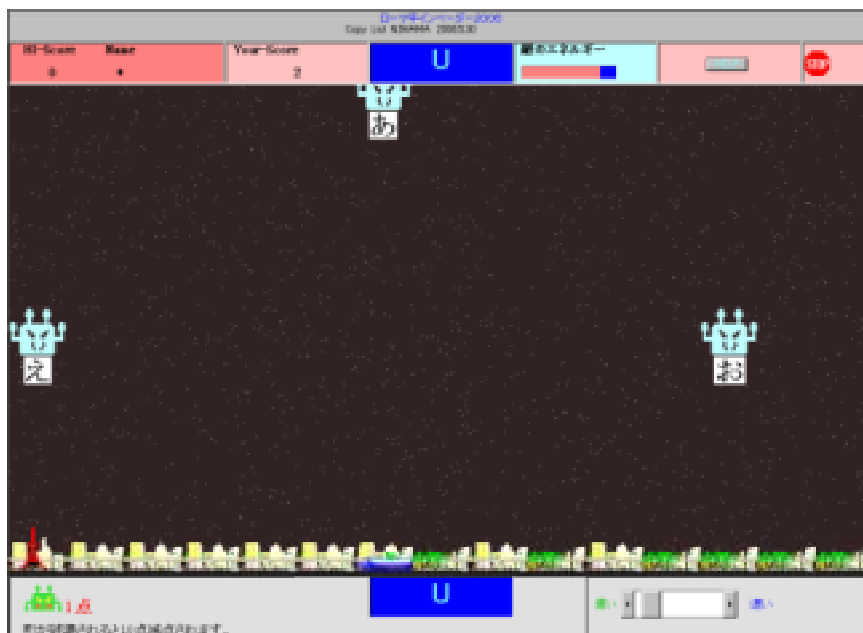
名前を登録



名前を入力



ア行からはじまる



上はア行の最初の画面
進んでいくと最後は右のような名人の画面となる。
進むにつれてキャラクターも変わっていくので子どもも次は何が出てくるのか期待できる。

